

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40		-		3.8
1 音環境				3.0	0.15	3.1	1.00		3.1
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音		-		3.0	0.50	3.3	0.50		
1 開口部遮音性能		-		3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		界壁の壁厚を200mm以上とし、二重壁によりDr-50を目標値に設定		3.0	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		-		3.0	-	3.0	-		
2 温熱環境				2.6	0.35	5.0	1.00		4.5
2.1 室温制御				3.0	0.50	5.0	1.00		
1 室温		-		3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能		複層ガラスの採用		3.0	0.38	5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性		-							
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.2	0.25	4.0	1.00		3.6
3.1 昼光利用				3.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光率		住居部分2.0%以上		3.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口		-				3.0	0.30		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御		カーテン及びバルコニー庇の組合せで制御		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		-		1.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		-		1.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00		3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を床、壁、天井、天井裏の面積の合計の70%以上の面積に採用している		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38		
1 換気量		-		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		-		3.0	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視		-		1.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		-		1.0	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.0
1 機能性				3.0	0.40	3.0	1.00		3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性		-							
2 高度情報通信設備対応		-				3.0	1.00		
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00				
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観		-		3.0	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-							
3 内装計画		-		3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		水セメント比50%以下 かぶり厚さ30mm~50mm		5.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		水道用ポリエチレン管(給水)B、硬質塩化ビニル管(汚水・雑排水)B		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		2.0	0.20				
2.4 信頼性				2.8	0.20				
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20				
3 電気設備		-		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20				
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20				

3	対応性・更新性		3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり		-	-	3.0	0.50	
	1 階高のゆとり	-	3.0	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級 等級5	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	住宅部 BEI 0.8	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護		2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水	-	1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.9	0.60	-	-	2.9
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上げ材のディテールを採用している、LGS工法により内装材と設備を容易に取り外すことができる	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が1つある	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率=75%	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	駐輪台数を戸数の100%以上、駐車台数は戸数の70%を確保し、交通負荷の抑制を図った。	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害が「ドライン」の一部を満たしている。広告物照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0	-	-	-	3.0	1.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0	-	-	1.0	3.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	12.0	-	1.0	2.0	-	1.0	3.0	-	-	2.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-	対象外	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 0.3 η AC 1.3 η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 4.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/m ²
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 75~90 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 - m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 -
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m ²
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 - 建物緑化指数 -
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 等級4を超える 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m ² 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 - 住宅 0.80 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 - 隣棟間隔指標R _w - 地表面対策面積率 - 屋根面対策面積率 - 外壁面対策面積率 - 見付面積S _b - 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s - m 基準高さH _b - m 緑地 m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²